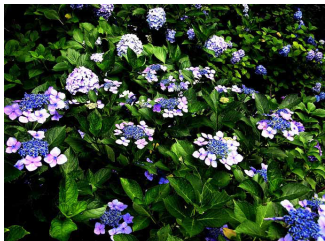


第 83 回目の GIS News! です

梅雨のじめじめしたはっきりしない日が続いておりますが、皆さんは体調を崩されていませんか。こういう時は、梅雨の合間に森林浴を兼ねて高原のドライブも良いものです。

さて、今回は今後 GIS の主流になるといわれる「Web-GIS」について二回シリーズで考えてみます。



雨の中のあじさい

「Web-GIS の現状 パート I」

最近では、多くのインターネットのサイトで地図情報を目にします。一番多いのが、自分が見たい場所を検索して閲覧するサイトです。そのほかには、自分が持っている情報を地図上に落とし、自分の為にナレッジ（知識）を蓄積したりして第 3 者と共有するサイトです。こういった地図情報は、使用目的やインターフェース等は違いますが、1 点共通していることがあります。それは、「使用者はインターネットを通じ地図情報システムを利用する」ということです。

ここで、Web-GIS の代表的な使い方を考えてみます。

○インターネットを使用し地図情報を利用する。

インターネットを使用して地図情報を利用する為には、“ブラウザ”（Internet Explorer、Netscape 等）があれば可能です。地図情報を利用する立場としては、パソコンに地図情報を動かす為のソフトをインストールする必要がなく、誰もが手軽に簡単に地図情報を利用できるというメリットがあり大変便利な道具です。

○地図情報をインターネット配信する。

地図情報を配信する側である Web-GIS システム自体は、多くの問題を抱えています。1 つはセキュリティの強化。2 つめは Web-GIS システム作成の難易度等、インターネット・アプリケーション共通の問題です。しかし、最近では、インターネットに関する技術がレベルアップしており、これらの問題も軽減化されつつあります。

以上から、今後の Web-GIS はさらなる発展が目に見えています。しかし、Web-GIS を構築する上で一番大切なことは、「こういった目的で利用者に使っていただくのかを十分検討すること」に尽きるのではないのでしょうか。

次回の GIS News!

次回は、2004 年 8 月 9 日発行予定です。よろしくお付き合いください!

Geographic Information System